

neo

MEDICAL INFORMATION MAGAZINE

Winter
2026
#10



輝く未来を医療と共に。

福井大学医学部附属病院
乳腺・内分泌外科 准教授

前田 浩幸

シン内視鏡・外科クリニック
院長

田畠 信輔

公益社団法人福井県看護協会
会長

福井県看護連盟
会長

五十嵐 行江 / 林 靖子

Contents

02

Doctor's Hand

福井大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科
准教授

前田 浩幸

12

Reliable Doctor's

シン内視鏡・外科クリニック
院長

田畠 信輔

18

Very Human

公益社団法人福井県看護協会
会長

五十嵐 行江

福井県看護連盟
会長

林 靖子

命と健康を守る医療を支える
ALSOKは、とことん、あなたのために。

I'm ALSOK!

24時間・365日。
見守り、そして駆けつけます。

STAFF

Project Design 坂口 俊克
Writer 上乗 繁能／大廣 涼
Photographer 藤森 祐治
Designer 吉田 真人／西村 恭子
Cover Design 101%

発行／スギメディカル株式会社
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ヒルトップ神田ビル
TEL: 03-3518-5356 FAX: 03-3254-1339
E-mail: t.sakaguchi@project-ishin.net

ALSOK

北陸綜合警備保障株式会社

代表取締役会長 森本 昇 代表取締役社長 久島 泰志

本 社 石川県金沢市松島1丁目41番地 TEL.076-269-8686
福井支社 福井県福井市成和1丁目1504番地 TEL.0776-23-1306

HIROYUKI MAEDA

#University of Fukui Hospital

乳がんは治せる! その面白さを 伝えたい

進化する乳がん治療

女性のがんで人口10万人あたりの罹患率第1位を占める乳がんは、全国で年間約9万人かかるとされる。患者数は毎年右肩上がりで、2030年には、2015年の約1.5倍に増えると予想されている。

ライフスタイルの欧米化による食生活の変化、初潮の低年齢化、閉経の遅延などが、これまで罹患理由の上位にあげられてきた。しかし最近は、国内外の疫学調査などから人口構造の変化や、出産の遅れなどの影響が指摘されている。

「2025年の厚生労働省研究班の報告で、乳がんの患者さんが増えるリスク因子として、晩婚化による高齢出産と出生率の低下をあげています。高齢出産と少子化が同時に進んでいることを示していく、それが新たな要因として考えられています」

前田浩幸准教授はそう説明する。乳がんの予防は、健診の受診率を上げて早期発見、早期治療につなげることが有効とされているが、「受診率も平均で40～45%ぐらいで、あまり伸びてはいない」(前田准教授)のが実態だ。しかし治療についてはここ数年、大きく進化してきている。なかでも新薬開発による再発予防や、患者個々の状態に応じて治療法を選択する個別化医療が進んでおり、術後の5年生存率も良好な成績が得られている。



乳がんである場合は、どこまで拡がっているか、またどのような性質かなどの術前検査と診断を入念に行う。乳がんの診断が確定したら、手術適応か、乳房温存手術が可能か、リンパ節郭清を省略するためのセンチネルリンパ節生検の対象かを見極める。手標本で細胞を採取し、病理検査で詳しく調べたうえで患者の腫瘍の性質を把握し、ガイドラインに沿って治療法を検討する。

「見極めの基準は、転移を疑う腋窩リンパ節があるかどうかで、判断が分かれます。転移を疑うリンパ節があれば、腋窩郭清手術の適応で、転移を疑うリンパ節がない場合には、センチネルリンパ節生検を行います。センチネルリンパ節に2mm以上の大きいリンパ節転移がある場合には、腋窩郭清手術を追加し、2mm以上の転移がない場合には、腋窩郭清をせずに、抗癌剤、ホルモン療法や他の薬物療法などで治療することを検討します。最近の症例で、センチネルリンパ節に2mm以上の大きいリンパ節転移が2個以下の症例では、腋窩郭清を省略し、新しい放射線治療を行うと、患者さんのお体への負担が少なく、乳がんの治療成績も、腋窩郭清手術の場合とあまり変わらないことがわかつてきました」

乳がんは、2mmを超えるリンパ節転移があった場合、従来まで腋窩リンパ節を広く切除する腋窩郭清手術が行われてきた。しかし、術後に腕が腫れるなど体への負担が大きいこと

治せるがんであるためには、検査と診断、治療をセットで実施することが重要だ。福井大学医学部附属病院では、デジタルマンモグラフィー、フルデジタル乳房超音波検査、ヘリカルCT、乳房MRI、穿刺吸引細胞診、針生検などを駆使して、まず乳がんかどうか、ようと考えながら行っています」

乳がん治療の目標は、現行では「10年後に再発しない」を照準に置いているが、手術、放射線治療、抗がん剤治療、ホルモン療法や抗体治療薬などの再発予防治療を、診療ガイドラインに沿って組み合わせることで、生存率は格段に改善している。前田准教授が「治せるがん」と強調するのもそこにある。

リンパ節転移を見極める



HIROYUKI IMAIeda

限りなく100%に近づける

前田准教授は、もともと消化器外科が専門だった。しかし「消化器系のがんは当時の私の力ではなかなか治すことができず、忸怩たるものがありました。そのときに同じ悩むなら治すことができる診療科を専門にしたいと考えて」乳腺・内分泌外科を選んだ。乳腺・内分泌外科の魅力はどんなところだと感じているか？

「診断と治療が一貫してできるところだと思います。工夫すれば生存率も伸ばせるし、その楽しさもある。今から20年以上前ですが、私がアメリカに留学していたときに、遺伝性乳がんの患者さんが多いユダヤ系の病院で基礎研究をしていました。私が日本では乳がん治療医であると知って、治療のディレクターから毎週のようにメールが送られてきました。乳がんは100%治すことが最も価値あることだ。そうするには、個別に患者の治療を考え、遺伝子を調べて、それに応じた治療法を考えることだと延々と書いてありました。そのころ日本では、まだハーセプチンといった乳がん細胞の増殖を抑える分子標的薬もなっていました。そんな時代に、その病院では乳がんを100%治すことを目標にしていたのです。それから20数年後、前田准教授はいま、当時の治療ディレクターが指摘した検査や治療法を実践し、乳がんを限りなく100%近く

から、前田准教授は、「2mmを超えるセンチメルリンパ節転移が2個以下ならば、リンパ節を広く切除せず、放射線治療で対応する」治療を、院内の臨床試験で開始しようとしている。そこで行われる最新機器を使った放射線治療で、より患者への負担が少ない治療法が注目されている。

「IMRTという強度変調の機器を使った新しい放射線治療です。コンピュータ制御で放射線の照射に強弱をつけ、がんの形に合わせてピンポイントで照射することが可能です。正常な臓器を傷つけず、がんには十分な線量を照射できるのが特徴です。乳がんの場合には、肺の近くで腋窩の奥にリンパ節があるのでも、従来の放射線治療では、肺への影響が心配でした。IMRTは、肺を傷つけずに放射線を照射できるので、治療効果が高く、副作用の少ない治療法として期待できます。ただ、機器自体は2024年に導入済みですが、IMRTを使った放射線治療は、日本では放射線の当方がガイドライン上ではつきり決まっていないこともあります。県によって保険収載されていないところもあり、ガイドライン上は弱く推奨されているのが現状です。福井県も保険適用外なので、当面は臨床試験として実施していく予定です」

乳がんと診断された時点でのリンパ節転移があるかどうかを厳格なまでに追求し、患者の状態に応じて適正な治療法を導き出すのが、乳がん治療の主流になっている。



治せる領域にまで足を踏み入れつづある。

患者一人ひとり個別の状態に応じて治療法を考え、提案する。患者の希望に応じて保険適用が可能な遺伝子検査を実施し、病理の結果を診断や治療に当てはめていく。保険適用になつていらない治療法については、臨床試験に沿つて進めるなど乳がんを再発させない、治療を増やすために、あらゆる手を尽くしてきた。結果、「これまで15%あった再発率を3~4%にまで下げるところまで到達」している。

対等な立場で意思決定

乳がんの個別化医療が進む中、予防や患者の心理面の相談窓口として近年、注目されつあるのが遺伝性乳がんや卵巣がんへの遺伝カウンセリングだ。

遺伝性の乳がんについて、「当院では患者全体の4~5%と比較的少ないものの、家族に乳がん患者さんがいる場合、乳がんのリスクが高まります」(前田准教授)

血縁者に乳がん患者がない場合でも、若年発症や多発性、トリプルネガティブなどの特徴がある場合は遺伝性の可能性が指摘されている。福井大学医学部附属病院では、2009年に「遺伝診療部」を開設、乳がん・卵巣がんの早期発見法や、推奨治療の説明などの遺伝カウンセリングを行っている。家族で乳がんが多い場合や、乳がんと診断されて

子供に遺伝しないかどうか不安を感じる人に

は、希望すれば専門的な遺伝子検査(BRCA遺伝子検査など)で確認できるようになつている。

「BRCA遺伝子検査は、条件を満たせば保険適応で受けられます。ただ、仮に検査結果でリスクがあるとわかつても、ハリウッド女優のアンジェリーナ・ジョリーさんのように予防手術を受けるかどうかは議論があるところです。乳房を予防的に切除することでの発症は防げても、生存率にはあまり関係ありません。でも卵巣がんの場合は、早期発見が難しいので予防的に両側の卵巣卵管を切除すると、命が助かる場合は現実にあります。

乳がん治療は、わたしたち医師と患者さんが対等な立場で、話し合いをしたうえでどういふ治療法を選択するか。決定までの事前の相談や話し合いがとても重要になってきています」

医師と患者が、対等な立場で治療法などについて話し合い、意思決定する。そのプロセスを「シェアード・ディイシジョン・メイキング」というそうだ。前田准教授は、何よりも、シェアード・ディイシジョン・メイキングを大切にしているという。

「患者さんと向き合うときは、最初に『何が心配ですか?』と聞くようにしています。乳がんと診断されて動搖しない人はいません。治療をうまく進めるために何が心配なのかを聞いて、選択肢があれば一緒に考える。そういう気持ちで接することで、患者さんも少し

ずつ冷静さを取り戻し、子供や家族のこと、遺伝や再発の心配を打ち明けてくださることが多いです」

患者との向き合い方を含めて診断と治療を一貫して行える。それが乳腺・内分泌外科の魅力であり、面白さだと前田准教授は訴える。

「いま、医学部の5年生、6年生で乳腺・内分泌外科の入局を希望する人が4~5人います。治療の過程が面白いし、楽しいと講義などを通して地道に伝えてきた結果だと思っています」

若い人たちにもっと魅力を伝えたい。前田准教授の熱い思いが、乳腺・内分泌外科の未来に光を灯している。

前田 浩幸 まえだ・ひろゆき

福井大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科 准教授

[略歴]

- 1989年 福井医科大学医学部医学科 卒業
- 福井医科大学医学部附属病院 医員
- 1990年 岐阜県、松波総合病院外科
- 1995年 福井医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
- 栃木県、硅肺労災病院外科
- 1996年 山形県、本間病院外科
- 1997年 福井医科大学医学部附属病院第一外科 医員/助手
- 1998年 アメリカ・ハーバード大学
ベスイスラエルディアコネスマディカルセンター
において腫瘍分子生物学の研究に従事
- 2003年 福井大学医学部附属病院第一外科 助手
- 2007年 同 助教
- 2008年 同 診療講師・乳腺内分泌外科長
- 2013年 同 講師
- 2016年 同 准教授



食「薬膳」の力で 職員・患者様に活力を！

「体に良くて、おいしくて、」

078-783-6135

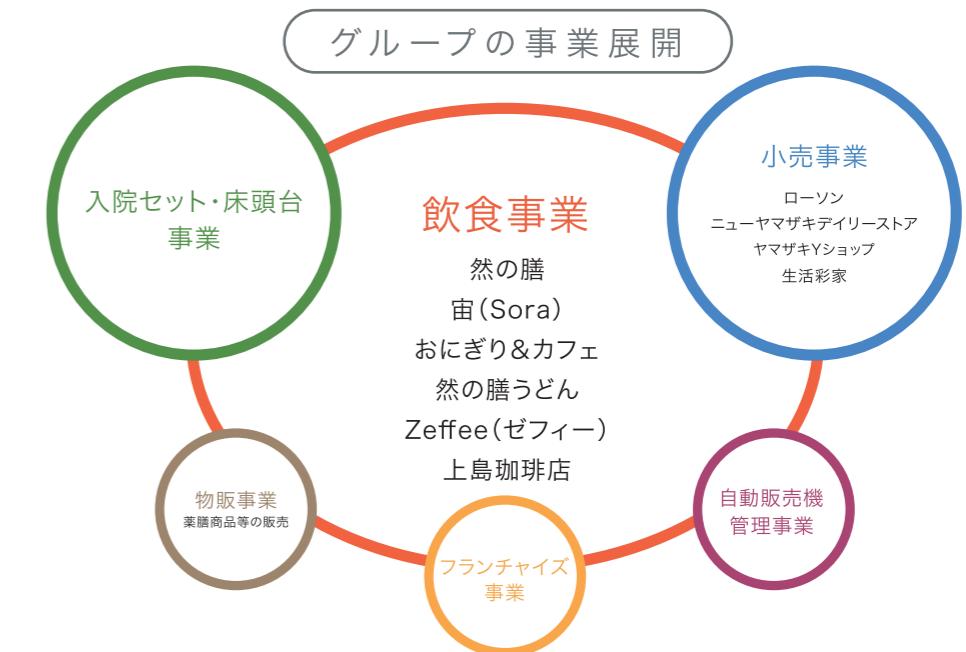
本社 〒655-0003 神戸市垂水区小東山本町2丁目2-1トキタビル3F

主な出店病院

- 東北地区** 仙台医療センター・JCHO仙台 他
- 東京関東地区** 東京都健康長寿医療センター 他
- 三重地区** 三重中央医療センター 他
- 大阪地区** 大阪医療センター・岸和田市民病院 他
- 兵庫地区** 神鋼記念病院・姫路医療センター 他
- 九州地区** 九州医療センター・JCHO九州病院

フードテックジャパンの提供サービスとして

- ・レストラン・カフェの展開
- ・売店・コンビニの展開
- ・自動販売機の設置
- ・入院セットのレンタルサービス
- ・床頭台のレンタルサービス



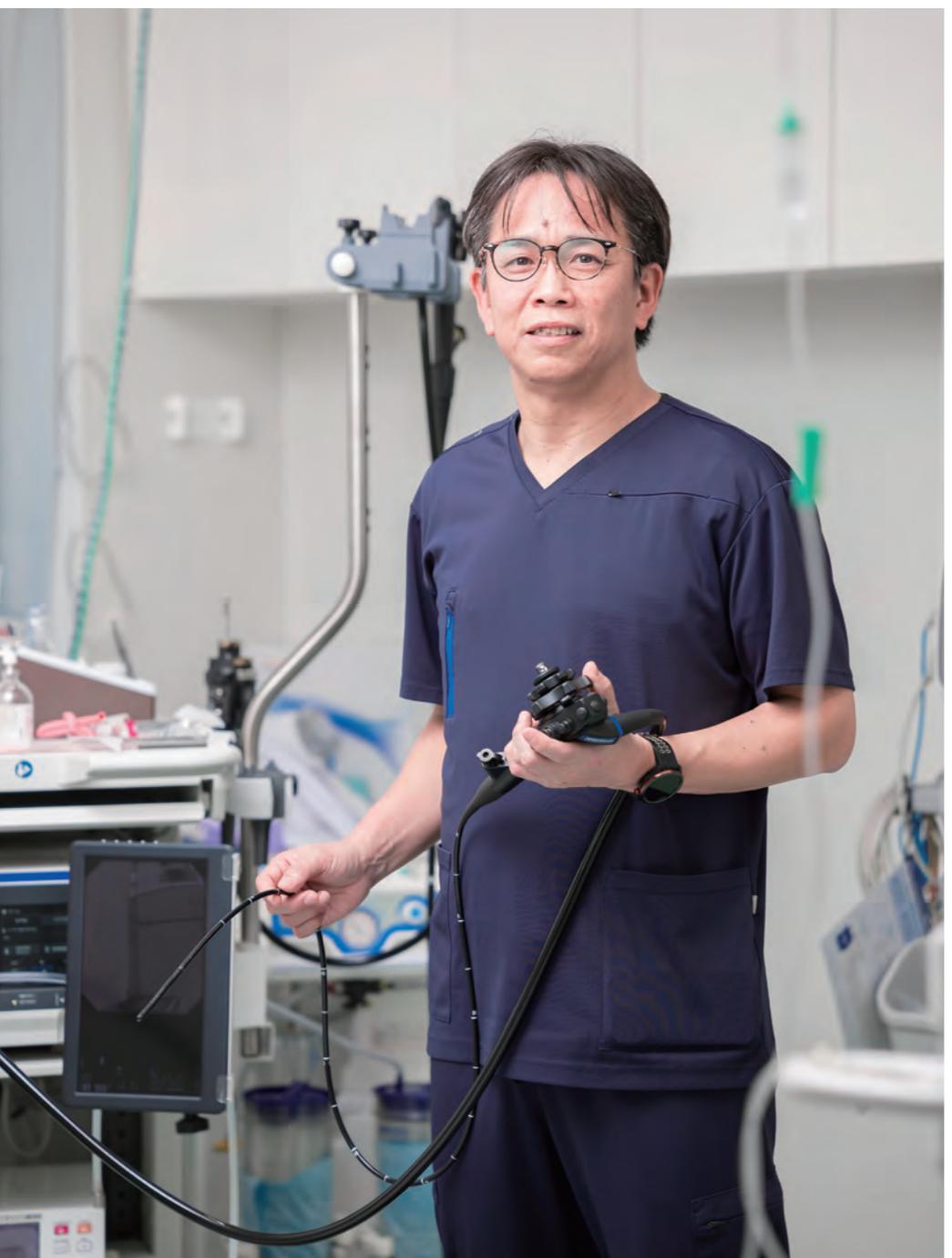
株式会社フードテックジャパン 公式ホームページ

<https://www.f-t-j.co.jp/>



消化器外科として歩んだ経験と技術を武器に、 地域の健康維持を支える

シン内視鏡・外科クリニック院長 田畠 信輔



大腸がん早期発見へ 内視鏡検査に注力

ともかくにも医療技術の進化は目覚ましい。ロボット手術に代表されるように革新的な医療機器が登場し、新たな術式も次々と生み出されている。そんな時代をにらみながら、医師としていかに社会に貢献していくか――。

福井県内の基幹病院を中心に、消化器外科医として腕を磨いてきた田畠信輔医師にとって、その道が地域に根を張ったクリニックで、内視鏡によるがん検診に力を尽くしていくことだった。

北陸自動車道福井ICから車で5

分、JR福井駅からも近い福井市西方

に、シン内視鏡・外科クリニックを開院して3年を迎えた。田畠医師は院長として、福井県内全域から訪れる患者と真摯に向き合う日々を送っている。

同クリニックの特色の一つが、胃や大腸の「内視鏡検査」にある。クリニックを開いた2022年当時、内視

鏡を冠したクリニックは福井県内では見当たらなかつたという。内視鏡専門医としてのスキルを武器に、田畠院長はスピード的に苦痛を伴わない検査に注力している。一般的な内視鏡検査では、大腸にポリープがあつた場合、1泊2日の入院で対処するケースが多い。対して、同クリニックは、検査で

見つけた際にそのまま切除することができ、入院する必要はない。

「大腸がんは良性のポリープ（腫瘍）から癌化することが多い。言い換えれば、自覚症状も何ももないポリープを取り除くことが大腸がんの予防には非常に有効です。にもかかわらず、大腸の内視鏡検査を受けるのは、健診の便潜

り検査などで異常が見つかってからと血検査などで異常が見つかってからという人がほとんど。しかし、その中には大腸がんが既に進行してしまっていることがあります」と警鐘を鳴らす田畠院長。食生活の欧米化などの影響で大腸がんは近年、増加傾向にあり、がんの死亡数（2023年）を見ると、男性で2位、女性で1位にランクして

いる。そんな背景もあり、同クリニックでは独自のリーフレットを作成し、

40歳を過ぎたり、大腸がんになつた家族がいたりする人などに積極的な大腸の内視鏡検査を呼びかけている。

全国的に珍しい 日帰りの腹腔鏡手術も

内視鏡だけでなく、田畠院長は腹腔鏡手術のスペシャリストでもある。その卓越した手技を生かし、シン内視鏡・外科クリニックでは、鼠経ヘルニア修復術や胆のう摘出術などの日帰り手術にも対応している。世界に目を向ければ、日帰りの腹腔鏡手術は徐々にスタン

ンダードになろうとしている。けれども、国内ではまだ、受け入れ環境の問題から実践する医院があまり多くないのが実情だ。田畠院長は、「妻が麻酔科医で、当クリニックでは的確な全身麻酔を行うことで、午前中に手術、午後には帰宅することも十分に可能です」と話しており、クリニックの大きな特徴となっている。

入院する必要がないことから、治療にかかる費用を抑えられるうえ、いち早く仕事や家事にも復帰できる。患者にとってメリットは大きく、福井市嶺北だけでなく、県外や嶺南から手術を受けに来る人も少なくなく、アメリカで働く日本人が帰国時を利用して訪れたこともあったという。

もちろん、外科手術である以上、術後の傷跡の大きさや回復のスピード、合併症のリスクには、執刀医の技術力が明確に表れる。その点、田畠院長の腕前は確かだ。日本消化器外科学会の専門医・指導医、内視鏡外科学会の技術認定医、日本ヘルニア学会鼠径部ヘルニア修得医など、数々の資格が医師としての高いスキルを裏付けている。加えて、同クリニックには、手術室勤務などの豊富な経験を持つ看護師もそ



ろつており、たとえ日帰りであつても安心できるチーム医療の提供に心を砕いている。

実践の中で手技を研鑽 その姿勢はいまも変わらない

消化器外科に軸足を置きながら、内視鏡検査にも高い技術力を誇る。国内を見渡しても、田畠院長のように2つの道を邁進してきた医師はあまり多くはないのではないかだろうか。その背景には、地域性が深くかかわっている。

「福井医科大学（現福井大学医学部）を卒業して入局した同大学第一外科では、外科であっても内視鏡を扱うのが当たり前でした。全国的には、消化器外科と内視鏡検査は明確に線引きされているところが大多数だと思います。福井の地で医師をして学んできたことが、いまにつながっています」。

田畠院長はこう話し、若手のころから大腸ポリープ切除に加え、治療内視

鏡（ERC-P関連手技、ESD、メント留置など）を手がけ、内視鏡による検査・治療件数はゆうに3万件を超えるという。腹腔鏡手術に関しては、入局2年目に胆のう摘出術を執刀したのをスタートに、鼠経ヘルニア修復や

新型コロナが転機に クリニック開院を決意

消化器外科医として、内視鏡検査と

腹腔鏡手術の最前線に立ち、忙しくも

充実した日々を過ごしていた田畠医師

医療の進展に向けた研究にも情熱を注いでいる。

が、クリニック開業を決めた背景にもまた、時代のうねりが大きくかかわっている。転機となつたのは、新型コロナの感染拡大だ。感染を防ぐ目的で人と人の接触を避けるのが第一とされ、

医療の現場も大きく様変わりした。「病院では内視鏡検査が敬遠されるようになりました。この状況が続くと、検査を受けられない医療難民が出てしまう」（田畠院長）と考え、内視鏡検査の受け皿となるクリニックの開業を思い描くようになったという。

同時に、40代後半を迎えた新たなステップに踏み出す思いも高まつていった。「外科手術では今後、ロボットが増えしていくのは間違ひありません。これまで磨いてきた内視鏡、腹腔鏡手術の技術を生かすには、内視鏡によるが

ん検診に力点を置いた方がいいのではないか」と思ったことも理由の一つです」と、田畠院長は振り返る。さらに、クリニックで担う鼠経ヘルニア修復などの外科手術については、腹腔鏡手術が最善の一手になるケースが少なくなっている。麻酔科医の妻の力を借りれば、患者にとってメリットの大きい日帰り手術という強みも付加価値として打ち出せる。さまざまなタイミングが重なつ

虫垂切除といった手術を数多く経験してきた。腹腔鏡下の胃切除や結腸切除、脾切除、食道裂孔ヘルニア修復など難易度の高い症例の実績も豊富だ。

さらに、田畠院長が医師になる少し前に電子内視鏡が登場。かつてはスコープをのぞき、一人の医師だけが目にしていた世界を、モニターに映し出すことができるようになつたのである。

内視鏡技術の革新によって、医師が集まって検討を重ねたり、トップレベルの手術映像を取り寄せて確認したりと、学ぶ環境が格段に充実したことが、若き消化器外科医の成長を後押ししてくれたという。

並行して、新たな領域にも果敢に挑んできた。勤務医の時代から、クリニックを開院した現在に至るまで、田畠院長は腹腔鏡手術に関して新たな術式を開発し、何度も学会で発表してきた。

若き消化器外科医の成長を後押しして、学ぶ環境が格段に充実したことが、内視鏡技術の革新によって、医師が集まって検討を重ねたり、トップレベルの手術映像を取り寄せて確認したりと、学ぶ環境が格段に充実したことが、若き消化器外科医の成長を後押ししてくれたという。

これまで検討を重ねたり、トップレベルの手術映像を取り寄せて確認したりとしてできることを尽くし、がんなど

信用を重ね、新たな医療で 真価を發揮していく

勤務医だったころと比較すれば、現状は大きく変わった。スタッフの採用・育成、経営のことなど、クリニックのトップとして頭を悩ませることもあるという。ただ、自分自身の役割や立場は以前とは違っていても、医師としての根底に流れるものは変わらない。それは、「患者にとって何が最善かを考えいく」ことだ。クリニックとしてできることを尽くし、がんなど

DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

ドラッグストア併設で 理想の開業を!

DCPソリューションの提供サービス

- 経営理念、診療方針の作成
- 開業までのスケジュール作成
- 開業地の選定、診療圏分析
- 事業計画の策定
- 融資の打診及び交渉
- 設計、内装業者紹介及びアドバイス
- 医療機器選定
- 税理士、公認会計士の紹介
- 広告相談
- 従業員募集、採用、教育の補助
- 開設手続き
- 開業後の経営支援、拡大展開
- 継承支援



拠点

- 関東エリア(本社) ● 東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号 ヒルトップ神田ビル
- 中部エリア ● 愛知県大府市横根町新江62番地の1
- 関西エリア ● 大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号 新大阪第5ドイビル13階
- 北陸・長野エリア ● 石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分~18時00分

<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>



の疾患が見つかった際などには、患者の希望を最優先に基幹病院へと連携を図っていく。

スタッフと力を合わせ、よりよいクリニックの環境づくりにも余念がない。クリニックでは、24時間いつでも登録できるWeb予約システムなど、受診しやすいようにきめ細かなサービスを開発する。患者への丁寧な対応もモットーにしており、日帰り手術を受けた際はメッセージアプリで定期的に術後の様子を確認し、不安や気になることがあれば気軽に相談できる態勢を整えているそうだ。

ちなみに、同クリニックのシンボルマークは、アルファベットの「S」を青・黄・水色の4本の線で描いたデザインになっている。これはクリニック名にあるシン(S hin)を表したものだ。青の2本線には、院長の名前の“信”輔と、地域に“信”用、“信”頼されるクリニックを目指すという思いを込めた。黄色の線では、日帰りの腹腔鏡手術に加え、研鑽を重ねる中で修得した“新た”な医療を提供していくことをメッセージ。そして、水色の線には、田畠院長がひたむきに歩んできた医師としての矜持が強くに

じんでいる。

いま増加している大腸がんに関してはガイドラインによれば、40歳以上で初回の大腸内視鏡検査を受けていただき、所見に基づき、原則的にlow risk群は5~10年後、high risk群は3年後のフォローアップが推奨されるなど、内視鏡検査はクリニックと患者の息の長い付き合いが重要となる。四半世紀にわたって培ってきた田畠院長の知見を、ふるさと福井に還元していく道はまだ始まつばかり。地域に根差し、1日1日と歴史を刻んでいく中で、シン内視鏡・外科クリニックの“真価”はより輝きを増していくことになるだろう。

PROFILE

田畠 信輔 たばた・しんすけ

【略歴】

- 1999年 福井医科大学医学部附属病院 医員
- 2000年 名古屋大学会病院 外科医師
- 2001年 福井県済生会病院 外科医師
- 2002年 福井医科大学医学部附属病院 第1外科医員
- 2003年 福井大学医学部附属病院 医員
- 2004年 福井循環器病院 消化器科医師
- 2007年 福井総合病院 外科医長
- 2009年 坂井市立三国病院 外科医長
- 2010年 国立病院機構福井病院 外科医長
- 2015年 公立丹南病院 外科・消化器外科科長
- 2017年 城北病院 外科医長
- 2022年 シン内視鏡・外科クリニック開業

職業選択の多様化が進む

あるようです。



公益社団法人福井県看護協会 会長
五十嵐 行江

福井県看護連盟 会長
林 靖子

五十嵐 看護の問題は、人材の確保と看護の質をいかに担保するかに尽きます。DX化でどれだけ作業を効率化できるか、ロボットや遠隔診療でなんとか賄つていいような話も進んでいますが、ロボットにできることを区分けするのは私たち人間ですし、看護の質を担保するにはやはり人材を一定数確保しないといけません。私は、施設の看護管理者がこれからはギーゼンだと思っていて、若手のうちから起これる問題に対してもう一つうに解決していくかを教育していくことが大事

若い施設看護管理者を育てる

林 同感です。専門学校から4年制の大学志向になっている気がします。また、大学で看護師のライセンスを取得しても、看護職に就かない人が全国では1000人を超えていました。「直美（ちょくび）」といって、給与や待遇のいい美容整形に直接就職する人も増えていると聞きます。最近は、親御さんが「知識や技術が必要だし、夜勤があるし、そんな厳しい仕事に就かなくていいんじゃないの？」と子供さんの看護職選びを止めるケースも

高齢化や人口減少、働き方改革、2040年問題など医療業界に変革の波が押し寄せています。看護人材の確保と看護の質をいかに担保するかも大きな課題です。今後に向けて福井県看護協会の五十嵐行江会長と、福井県看護連盟の林靖子会長に語り合っていただきました。

Very Human
「ベリー・ヒューマン」

人材確保と看護の質を高め 給与体系の改善に努めます

人たちの“看護職離れ”が目につきます。林 2024年度では看護職（看護学科を有する）の大学が全国で309校あるに対し、1990年には全国で10校ぐらいでした。看護師等の人材確保の促進に関する法律（1992年）ができて、看護系大学が30倍に増えました。福井県内にも現在は4校あります。看護の質向上につながったと思います。教育体制も教育レベルも格段に違いますし、卒業後の選択肢もいろいろあります。県外にて活躍したいとか、給料が良くて、夜勤がないところに流れるのは、ある意味致し方ない面はあるのかかもしれません。

五十嵐 親が難色を示すと、それに反対してまで看護職を選ぶ人は限られます。大学も定員割れこそしていませんが、卒業後の県内定着率は高くありません。入学する人は全国から集まるので、もともと県内出身者は少ないのに加えて、大学まで県内にいたので就職する時ぐらいいざりがついていません。数字上は、就業環境は悪くないように思えますが、就業している看護師の20%弱、つまり5人に1人は年齢が60代で高齢化が進んでいます。それと看護師を職業に選ぶ人が年々減っていますが、専門学校は定員割れの状態ですし、高校から看護専門学校まで5年間一貫教育の学校も定員の7割ぐらいです。若い

見ると、令和6年（2024年）で約1万2000人が就業しています。県内の看護師の有効求人倍率もほぼ3倍と下がっています。数字上は、就業環境は悪くないように思えますが、就業している看護師の20%弱、つまり5人に1人は年齢が60代で高齢化が進んでいます。それと看護師を職業に選ぶ人が年々減っていますが、専門学校は定員割れの状態ですし、高校から看護専門学校まで5年間一貫教育の学校も定員の7割ぐらいです。若い

見ると、令和6年（2024年）で約1万2000人が就業しています。県内の看護師の有効求人倍率もほぼ3倍と下がっています。数字上は、就業環境は悪くないように思えますが、就業している看護師の20%弱、つまり5人に1人は年齢が60代で高齢化が進んでいます。それと看護師を職業に選ぶ人が年々減っていますが、専門学校は定員割れの状態ですし、高校から看護専門学校まで5年間一貫教育の学校も定員の7割ぐらいです。若い

だと考えています。今年から、東海・北陸の7県合同で若手のリーダーシップ育成と育成研修を始めています。対象は看護師2年目からですが3年目、4年目の人にもどんどん参加していただきたいと思います。7県が一緒になった研修をオーデマンドでやれるので刺激になりますし、指導者研修をセットにして地域にいろいろなリーダーを育てていこうと思ってます。芽が出るのはこれからですが、たとえば感染管理でリーダーシップが取れる人、災害看護についてリーダーになれる人など、キャリアアップや地域で人を巻き込みながら活躍できるリーダーを育てていくことが、私たち看護協会の役割だと思っています。

林 管理者としてキャリアアップするための教育や研修は以前からあったのですが、最近は看護部長や看護師長はじめ、リーダーになりたくないという声を聞きます。それは、一つには給与体系が関係しているのではないかと私は考えていました。看護職の賃金は医療職俸給表（三）に基づいている施設が多いのですが、この階段が非常に低いので、看護師長になっても、夜勤がなくなる分、現実には手取りが少なくなってしまいます。看護管理者の責任や業務は増えています。給与体系を根本的に見直さないと、若い人たち

に「師長やリーダーになりたくない」と思われてしまします。労働に見合った賃金体系が必要だと思います。



Yasuka Hayashi

PROFILE 林 靖子

- 1974年 京都第一赤十字看護学院 卒業
- 1974年 京都第一赤十字病院 就職
- 1976年 福井循環器病院・心臓センター 就職
- 1978年 福井赤十字病院 就職
- 2007年 認定看護管理者取得
- 2011年 福井赤十字病院看護部長 就任
- 2013年 福井赤十字病院副院長兼看護部長 就任
- 2016年 藍野大学 就職
- 2021年 福井県看護連盟会長 就任



Yukie Igarashi

PROFILE 五十嵐 行江

- 1985年 福井県立短期大学第1看護学科卒
福井医科大学附属病院（現 福井大学医学部附属病院）就職
- 2018年 福井大学大学院医学系研究科修士課程修了
修士（看護学）
福井大学医学部附属病院 副看護部長就任
- 2019年 認定看護管理者取得
- 2021年 福井大学医学部附属病院 副病院長（看護担当）・看護部長就任
- 2024年 福井大学医学部附属病院を定年退職後、
公益社団法人福井県看護協会 常務理事就任
- 2025年 福井県看護協会会長 就任 現在にいたる

五十嵐 いまは、病院経営がどこも赤字で厳しくて正直、診療報酬が上がらないと看護職の給与や待遇の改善も難しいのが現実です。でも、看護職の給与だけは過去20年間で平均6000円しか上がっていないのは大きな問題で、これをなんとかしたいのが私たちの本音です。

県看護協会と県看護連盟の関係は、上部組織である日本看護協会と日本看護連盟の関係に準ずる。つまり看護連盟は、ために国政、地方議会に代表を送る②看護協会が示す政策を実現するための政治団体であり、①看護協会の政策実現の代議員の活動支援が主な役割だ。なかでも政策実現のために最優先して取り組んでいるのが、看護職の給与体系の改定であり、診療報酬の引き上げである。

に「師長やリーダーになりたくない」と思われてしまます。労働に見合った賃金体系が必要だと思います。

看護職の給与アップを勝ち取る

林 看護連盟の会長としては、看護政策実現のために、看護職が生き生きと働き続けられるように、看護協会と一体となって、賃金UPも含めて、待遇改善を目指した活動をしていきたいと思います。現場は声を上げないといけないし、現状を知つてもらうことが大事だと思います。それと、Z世代の若者にも看護協会・看護連盟を理解してもらえるような活動が必要だと思っています。

いま、働き方改革は看護の世界ではかなり進んでいます。子育てる人は既得権として短い時間で働く人がほとんどです。育児休暇丸々3年間を確実に取るので、30代前半ぐらいでお子さんが一人産まれると3年間休暇して、2人目ができるまでまた3年休んで、その間に3人目を産んで3年休暇を取つたら10年ぐらいい職場に出でられないわけです。なんとか「スキマバイト」みたいに、空いてる時間とか、自分が働ける時間で働いてもらうとか、お子さんが3年生とか6年生まで短時間勤務が可能ですよ、と言うふうに、職場の福利厚生や働き方がきちんと

と整つているところじゃないとなかなか人が来ない現実もあります。看護人材の確保はいま、本当に大変です。今後、災害時の支援や過疎地で医療が届きにくくころへの看護については、スキマバイトみたいなシステムを検討することも考えています。どれだけの需要があるて、対応できるだけの潜在看護師を登録またはブールできるのか調査してみようと思っています。いろんな手段を講じながら、看護人材の確保に努めたいと思っています。

力を貸してください。

協賛社募集

私たち「医療情報誌 neo」の活動に
ご賛同いただけるスポンサーを募っています。



変わりゆく時代に
新しい医療を

この度、第10号を発刊することができました。
取材に協力していただきました医療者の方、
協賛して頂きました企業様におかれましては
心より感謝申し上げます。
今後とも末永くご支援の程よろしくお願い申し上げます。

これからもわたしたちは、はたらく医療者の姿を、
地域の医療界全体へ発信してまいります。

想いを伝える、

医療を支える。 人と地域の未来のために。

私たちが幸せな人生を歩むために、医療は、必要不可欠です。

しかし、世の中の変化とともに、医療は今、多くの課題を抱えています。

医療人材の採用から育成、キャリア支援、仕組み作りまで

私たち MCS は、HR（ヒューマンリソース）の分野で、医療の課題解決に向き合います。

医療関係者、生活者、地域社会、その未来のために。



「地域」と「医療」の架け橋として ヒューマンリソースの問題をトータルで支援する



mcs
Medical Career Support

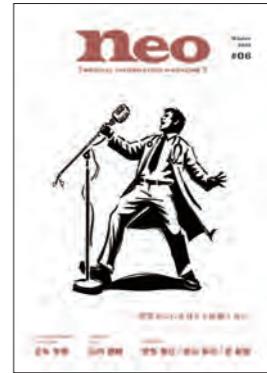
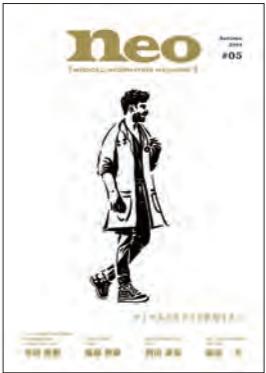
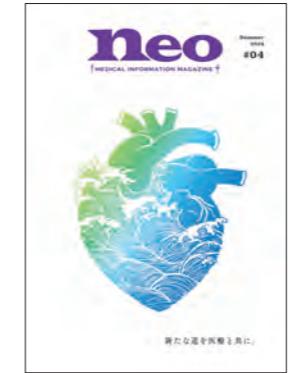
スギ薬局グループ



neo
MEDICAL INFORMATION MAGAZINE

福井県内で活躍する医療従事者に焦点を当てた地域密着医療情報誌として、県内の医療機関へ3カ月に一度配布しております。最先端医療から地域医療、また人々の暮らしに寄り添うクリニック、在宅医療・福祉など幅広い分野を取り上げております。この雑誌が福井県内の医療者と医療者を結ぶひとつの情報ツールとなり、福井県の医療活性化に少しでもお役に立てることを目的としております。

バックナンバー紹介





発行／スギメディカル株式会社